

ISSN 0385-7476
SSK

167
2000
May



その研究と情報

1 特集◎

点字出版所のあした 高橋秀治

25 talk to talk◎

いま社会人として輝く 石原弥生／棚橋美予

34 ボランティア最前線◎

共に生きるって? その答えを模索して

一名古屋YWCA美術ガイドボランティアグループ 足立すみ子

42 連載◎

英国高等教育における
障害者の学習支援システム (3) 広瀬洋子

53 平成12年度大学合格者並びに進学者一覧／平成12年度視覚障害者の就職状況一覧

58 インフォメーション・コーナー

視力のよわい方・お年寄りの方の読書に朗報！

モニター・カメラ分離式
簡易型書字兼用の

拡大読書器

●読みやすい●書きやすい●使いやすい かくだい君[®]



カラー読書器TOP-C02型

TOP-C02型の特長

- ピント合わせと拡大倍率は一本の操作棒で調節ができますので、楽な姿勢で読み書きができます。
- 拡大画像の高倍率化“39.5倍”を実現しました。(21インチモニターにて)。
- 広く・堅牢な資料台を採用しました。
- 資料用照明のまぶしさをなくしました。
- 21型(20kg)迄のモニター搭載が可能です。

価格

TOP-C02型 (モニター別売)

¥198,000

(お手持ちのビデオ入力端子付きカラーテレビをモニターとして利用できます)



白黒読書器TOP-01型

TOP-01型の特長

- ピント合わせと拡大倍率は一本の操作棒で調節ができますので、楽な姿勢で読み書きができます。
- 拡大画像の高倍率化“32倍”を実現しました。(17インチモニターにて)。
- 広く・堅牢な資料台を採用しました。
- 資料用照明のまぶしさをなくしました。
- 21型(20kg)迄のモニター搭載が可能です。

価格

TOP-01型 (14型テレビ付)

¥198,000

TOP-01型 (17型専用モニター付)

¥250,000

- 視覚障害者用拡大読書器には消費税がかかりません。
- 「日常生活用具」認定品として、補助金支給の制度があります。

代理店 (西日本地区)

三興機電株式会社
事務機械事業部

〒532-0012 大阪府淀川区木川東3-4-18
中村第2ビル
電話 (06) 6305-5031 (代)

製造・販売 (東日本地区)

株式会社 **ミカミ**
福祉機器担当

〒102-0083 東京都千代田区麹町1-10-1
電話 (03) 3263-3921 (代)

代理店 (北海道地区)

株式会社 **北海道オフ機材**

〒063-0033 札幌市西区西野3条4-10-8
電話 (011) 661-0834

緊迫の対話集会

昨年12月3日午後、東京・新宿区内の東京都視覚障害者生活支援センターの会議室には厚生省の担当官とわが国の点字出版施設の主だった代表とが向き合い、緊迫した空気が流れていた。これは公的助成獲得を目的として施設側が求めた勉強会である。はじめに挨拶に立った日本盲人社会福祉施設協議会（日盲社協）点字出版部会長の高橋実さんは、「視覚障害の福祉施設は国から何らかの補助を受けている。しかし、点字出版所にはそれがない」と核心に触れる問題点を示したあと、「最近のデータによれば、一般の出版界は年間6万3023タイトルの本を出しているが、点字出版界では年間263タイトルしか出していない貧しさだ。加えて点字書を購入してくれるはずの80を超える点字図書館のうち、40館で710タイトルしか購入していない。厚生省の身体障害者実態調査にあらわれた点字使用者は、視覚障害者30万5000人のうち2万8000人というきびしい現実がある」と、限られた人々を対象に細々と事業を続ける出版環境の苦しさを切々と訴えた。

それでも出版を続けるのは、情報入手が困難な視覚障害者に優れた資料を提供したいとの使命感があるからで、この実情をよく理解してもらい、行政は点字出版施設に対して公的な助成に踏み切ってほしい、と迫った。

これに対して厚生省障害福祉課の木村課長補佐は、省内では「社会福祉基礎構造改革」の論議を受けて社会事業法の改正を国会に提出する予定で、点字図書館や点字出版を含む視聴覚情報提供施設の

運営設置基準についての解説と問いかけをして応じた。

「すでに日盲社協の各部会から案が出ているが」と前置きして、「①数値の入った最低基準を設けることによって、逆に今ある施設が成り立たなくなるようなことがないようにしてほしい。②情報提供施設としての点字出版は情報製作施設とするとあるが、“点字”の名前が消えてもよいのか。皆さんの合意が得られているのか。③施設・設備の基準を細かくすると必置義務が生じてきつくはないか」などと、出版側が気になっている痛いところを突いた。

約30施設ある点字出版施設は、社会福祉法人・宗教法人・株式会社・有限会社・任意団体とその事業体制はまちまちで一律に括りきれない。基準をがちがちにすると、動きにくくなる施設が出てくるおそれがある。

そして木村補佐は、「このほど閣議決定された第2次補正予算のうち、点字図書館情報ネットワーク事業などに20億円がつけられた」と国の配慮を強調して講義を終えた。しかし、点字出版には一銭の予算も付けられていない。

勉強会は引き続き各施設代表との一問一答に移った。点字図書給付事業（点字本の価格差補償）など福祉制度の運用をめぐって細かなやりとりが続いたが、施設側の結論は「出版に対して国は人件費を含む助成をする気があるのか」の一点に集約された。

木村補佐は「個人的見解でいいか」と断った上で、「ダメとは言わぬが難しい」と堅い姿勢をくずさなかった。

事業規模も最大20数人から4、5名とまちまちだが、哲学・医学・文学・実用書・教科書・自治体広報・雑誌など多角的な情報資料を視覚障害者に提供してきた点字出版所は、今「情報の担い手」としての誇りはあるものの、読者の高齢化、点字人口の減少の波をまともにかぶり、その前途に大きな不安を抱えている。果たして点字出版所に「あした」はあるのか、その周辺を探ってみたい。

手間ひまかかる点字本の製作

昔から伝統的な出版の点字本づくりは、次の手順で行われている。

普通、縦53cm、横18cmの亜鉛板を二つに折り、点字製版機にかけて、点訳者が中央の六つの点をキー操作と同時に足元のペダルを踏んで点字を打ち込む。重ねられた原版に点の膨らみができる。これに点字用紙をはさんでゴムローラーの間を通して1枚1枚印刷して校正に廻す。点字触読者と原本を見る校正スタッフが誤字・脱字をチェックして製版に戻し、製版者はポンチとトンカチで訂正して再び校正に送る。この作業を数回繰り返して、正式な印刷に入る。この後、製本。のりやボンドを調合して背固めして、好みの表紙を付け、点字と墨字のラベルを付けて仕上げる。すべて手作業である。判型はB5判が主流だが、最近A4判サイズも出てきた。

1枚の原版に点訳できる活字は550字前後。このため1冊の墨字原本は数巻（平均1巻の厚さは110キロの用紙で70枚前後）に分冊される。点字本1巻は平均3cm位の厚さになるので、かさ張って場所を取ると言われるゆえんである。このため読者は購入に慎重になり、まずは点字図書館から借りて読むことになる。これは読者と点字出版施設にとってつらいことだ。

1970年代頃の点字本のベストセラーといえは200部程度を指していたが、最近では5、60部出ればヒット作といわれるほど落ち込んでいる。とても一般の活字出版とは比較できないか細さだ。この背景には、いわゆる点字使用者の減少、中途失明者の増大によるテープ図書の普及が挙げられている。ちなみに大手点字図書館のテープ書と点字書の貸出割合は10対1というデータがある。点字出版施設が青息吐息するのも無理はない。

一方、1980年代以降、日本ライトハウスや日本点字図書館の出版所は相次いで点字製作にコンピューターシステムを取り入れ、パソコンによる製版・印刷技術を確立した。従来の製作方法がなくな

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みにになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。

編 集 後 記

視覚障害者用誘導ブロックは、弱視者も有効的に利用しているとして、その色が重要視されるようになって数年になります。この間、識別しにくいブロックが敷設されると、視覚障害者団体は、行政や関係機関にこの問題の改善を働きかけてきました。その結果、ある自治体では条例でその色を黄色と定め、またある自治体では、利用しにくい色を黄色に改めるなどの取り組みがみられました。ノーマライゼーションの理念の浸透により、バリアフリーの街作りが進められる中、誘導ブロックについても、景観よりも機能性が優先されるようになったと感じ始めた矢先、ある政令指定都市で発生したこの問題を新聞紙上で見つけ落胆しています。ファミレスにコンビニ etc.と商業面での全国展開は活発で、これらの点での地方差は目立たなくなりました。しかしバリアフリーとなると、考え方や実践面でまだ格差が大きいと改めて感じさせられます。(立花明彦)

視 覚 障 害 2000年 5 月 No.167

年間購読料 4,200円 (送料とも)

発行日 2000年 5 月 1 日

編集人 立花 明彦

(連絡先) 日 本 盲 人 福 祉 研 究 会 (文 月 会)

〒167-0043 東京都杉並区上荻 2 丁目37番10号
Keiビル 3 階

電話 (03)5310-5051 (代)

FAX (03)5310-5053

<http://www.normanet.ne.jp/~fumizuki/>

振替口座 00160-4-16103

発行人 障害者団体定期刊行物協会

〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21

印刷所 株式会社 大活字

〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-1-9

電話(03)5282-4361